病　院　だ よ り　　2020年3月号　第388号

退任のご挨拶　**昭和大学病院　病院長　板橋家頭夫（いたはしかずお）**

病院長退任にあたって

【板橋家頭夫　病院長】

３月をもって病院長を退任することとなりました。在任中は、様々な職種の方々に支えられ、また皆さんとともに病院の運営ができたこと厚く感謝いたします。2008年４月より昭和大学病院副院長を拝命し、本年３月まで病院管理職を務めてまいりました。４年前に病院長に就任するとともに副院長時代とは大きく異なり、多くの責任が生じ、的確な判断やガバナンスが求められることを強く意識させられました。ときに強い重圧に心が折れそうになることもありましたが、何があっても自分自身が責任を取ればよいと腹をくくることにし、病院長職に徹してまいりました。

この間、常々望ましい昭和大学病院とは何かについて考え、職員の皆さんに訴えてきたつもりです。それは、特定機能病院あるいは大学病院として求められる**高度先進医療・高難度医療の導入**や**卒前・卒後教育、研究**に加えて、昭和大学病院の置かれている医療環境を背景にした**密接な地域連携に基づく地域中核病院としての役割**です。また、職員の皆さんには、**医療人としてのプロフェッショナリズム**も求めてきました。具体的には、職種相互のリスペクトや、チーム医療、感染予防や医療安全の習熟、適切な診療録の記載、保険診療のルール遵守など、さらには患者さんに対して真摯に向き合うことです。医療者は患者さんの気持ちを完全には理解できるわけではありませんが、自身の家族に置き換えて対応するだけでも患者さんの反応は変わってくるはずです。たとえ予後が不良であっても、患者さん（あるいは家族）の人生を充実したものにできるかどうかは、私たちの対応次第です。

病院長の就任と軌を一にした如く、皆さんとともに様々な変革の波にさらされました。電子カルテの導入や新たな診療科の設置・改変などもありましたが、もっとも苦労したのが**医師の働き方改革の導入**でした。昭和大学では他の大学に先駆けて働き方改革が開始されました。そのため、たびたび説明会を開きましたが、当初様々な課題に直面したことは記憶に新しいのではないでしょうか。医師の働き方改革には、単に時間外労働時間の抑制にとどまらず、当直体制や救急診療体制の改変、だれが見ても理解できる診療録の記載、オンコール体制導入、タスクシフト・シェア、さらには患者さんの安心・安全担保など様々な方面からのアプローチが必要でした。一例をあげれば、休日夜間の急変を避けるために導入した Rapid Response System（RRS）があります。現時点で働き方改革に関連する課題は十分に満足できる状況に達しているとまでは言えませんが、それでも着実に前進しつつあるように思われます。

院長在職期間もあと少しという時期に押し寄せた荒波は新型コロナウイルスです。病院をあげて様々な予防対策や対応を試みていますが、この病院だよりが皆さんのお手元に届くころにどのような事態になっているのか現時点では予断を許しません。最後の最後まで荒波に翻弄されるのは私の宿命でしょうか？新年度を迎えるころには、新型コロナウイルス問題も目途が立ち、職員の皆さんが明るい表情で日々の業務に就いていることを願うばかりです。

最後になりますが、今後の昭和大学病院・附属東病院のさらなる発展を心より願って筆をおきます。皆さんありがとうございました。

定年のご挨拶

臨床病理診断科　教授　瀧本雅文（たきもとまさふみ）

【瀧本雅文　教授】

昭和大学病院臨床病理診断科教授に就任して以来、８年間にわたり大変お世話になりました。多くの先生方、臨床検査技師の方々、事務部門の方々など多数の皆様に支えられて、今日まで昭和大学病院で病理診断業務、医学教育に従事できましたことを心より感謝いたします。厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

医師人生を振り返って

私の病理医の人生は「顕微鏡とともに」だったと思います。大学病院に勤務する医師にとって、診療・教育・研究が重要な使命ですが、最も大事にしていたのは、**病理診断を正確、迅速に行うこと**でした。病理診断の目的は形態的変化から病理の診断、つまり分類を行うことです。病理診断は多くの場合その患者の最終診断となり、治療法の選択や予後予測に必要な情報を提供します。ただし、病理診断の精度は診断を行う病理医の知識と経験に大きく依存していて、また診断基準の解釈が病理医によって一定せず、主観の関与が避けられません。つまり病理診断そのものには絶対的な基準がありません。病理診断学の知識は常に更新され、新しい疾患概念が確立され、その疾患に対する新しい治療薬が開発され、その適応があるかを免疫染色で判定するための新しい抗体が次々に開発されています。新しい知識を吸収していかなければ、診断精度に著しい支障をきたします。病理診断は膨大な知識と経験が必要ですが、全身の病気を対象とし病気の最終診断を行う病理医は医療の中でも中心的役割を担っていると自負しています。魅力ある形態学の世界にぜひ若い医療者が加わってくれることを願っています。

定年のご挨拶

薬剤部　部長　佐々木忠徳（ささきただのり）

【佐々木忠徳　部長】

1979 年４月昭和大学藤が丘病院に入局して以来、41 年経過しました。その間、亀田総合病院 12 年３ヶ月を経て 2015 年４月統括薬剤部長、薬学部病院薬剤学教授、大学病院附属東病院薬局長、烏山病院薬局長の兼務から再スタートし現在に至っています。医師・看護師をはじめ多くのメディカルスタッフの皆様の支えがあり、定年を迎える事ができました事、心より感謝申し上げます。これからも薬剤部をよろしくお願いいたします。

薬剤師人生を振り返って

薬剤師人生を一言でというと、「薬剤師のアイデンティティ」で、患者や医療スタッフからその存在を認められることでした。薬剤師どうしで議論しているだけでなく、真の医療チームの一員として認められることだとの信念で突き進んできました。特に**薬物治療において薬の専門家として医療を支えたい**、そのためには薬剤師としての責任を果たすことこそが他種職からの信頼を得られると考えてきました。最近では病院薬剤師への期待が高まり病棟にも常駐するような社会になったことは私個人としても大変喜ばしく、この４月から病院薬剤師のドラマが開始すると聞き、少しではありますが薬剤師の存在が認められる社会に変わってきたなと実感しています。今後は統括薬剤部長として薬剤部の支援にあたることとなりますが、これからの後輩薬剤師諸君の益々の活躍に期待していますし、昭和大学の実践する医療を薬剤部は全面的に支えてくれると確信しています。

退職のご挨拶　看護部 中央棟9階A病棟 師長 菊地美恵子（きくちみえこ）

昭和大学藤が丘病院 30 年、昭和大学病院 9 年、合わせて 39 年間の長きに渡りお世話になりました。異動・転勤の中で、様々な出来事がありましたが、看護部スタッフの方々をはじめ、多職種医療チーム・各部門の皆さまのご指導・ご支援をいただきながら乗り越えることが出来ました。振り返ると、**『感謝』の言葉**しか見当たりません。心より、御礼と昭和大学のさらなるご発展をお祈り申し上げご挨拶とさせていただきます。

看護師人生を振り返って

新人看護師として入職したときは、定年退職は遠い先の事と思っておりましたが、振り返るとアッと言う間で懐かしい気持ちでいっぱいです。平凡だけれど、渡辺和子さんの『置かれた場所で咲きなさい』の精神で頑張ってこられたと思っております。入職当時は看護師が不足しており、馬車馬のごとく働いていた時代や、異動・転勤の中で、様々な経験をし、多くの方々に支えていただき、育てていただきました。患者さんやご家族、スタッフの皆さんと一緒に悩み苦しんだことから生み出されたことが**今の『私の力』**になっているように思います。どれだけ恩返しができたかわかりませんが、昭和大学の皆さまのご活躍を心よりお祈り申し上げます。有難うございました。

退職のご挨拶　看護部 患者相談窓口 師長 小田原良子（おだわらりょうこ）

2020 年 3 月末をもちまして定年退職させて頂く事になりました。藤が丘病院 23 年、大学病院 12 年の長きにわたり昭和大学にお世話になりました。就職した当時は学内異動という概念はなく、大学病院は遠い存在でした。異動後は様々な戸惑いもありましたが、たくさんの皆様の温かい支援により定年まで勤めることができました。

看護師人生を振り返って

看護観の礎になった**「自然治癒力を促す技術を高める」**との出会いです。35 年前藤が丘病院 RCU※1 にて、背椎カリエスによる気道変形で挿管するのも困難な COPD※2 の患者さん。誰もが助からないだろうと思っていました。そんな中、患者さんが何かを伝えようとしており、口パクでの第一声が「おなかが空いた」でした。予断ならない病状でも**「生きる意欲」**を感じたスタッフ一同「この思いを叶えさせたい」と一致団結。当時の人工呼吸器は CMV、SIMV※3 のみで、呼気終末に陽圧をかければいい、というのはわかっていましたが道具がありません。食事を始めたくても抜管ができる状態ではなく、実現可能に向け何度も話し合いました。医師は水と蛇腹を使って自作の呼気終末期陽圧呼吸装置をつくり、看護師は挿管下での食事を実現させました。どちらも付きっ切りでした。食事を開始してからの栄養状態の改善は目覚ましく、呼吸状態も改善傾向で 53 日間の挿管期間を経て無事抜管に至り患者さんは退院することができました。当時は奇跡でした。ナイチンゲールが看護覚書の中で述べているように「自然治癒力を促す技術」はいつの時代も大切だと思います。良いチームに支えられ看護ができたことに感謝いたします。一緒に仕事をして下さったすべての職種の方に深く感謝いたします。ありがとうございました。

※1　RCU＝「呼吸器疾患集中治療室」　※2　COPD＝「慢性閉塞性肺疾患」
※3　CMV＝「持続強制換気」、SIMV＝「同期式間欠的強制換気」（いずれも人工呼吸器のモード）

退職のご挨拶

栄養科 科長補佐 菅野丈夫（かんのたけお）

【菅野 丈夫】

2003 年 5 月に帝京大学市原病院より昭和大学藤が丘病院に赴任し、2012 年 7 月に昭和大学病院へ異動となりましたが、この約 17 年間多くの方々にたいへんお世話になりました。あらためて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。藤が丘病院時代には慢性腎臓病に対する食事療法の臨床と研究を、そして大学病院では後進の指導を中心に仕事をしてきましたが、あっという間の 17 年でした。

栄養士人生を振り返って

私の管理栄養士としての人生は、**腎臓病の食事療法**とともにあったと言えると思います。帝京大学市原病院時代には、当時の腎臓内科教授であった小出桂三先生の下で透析患者の栄養管理の臨床と研究に打ち込み、2003 年に藤が丘病院に赴任してからは当時の腎臓内科教授であった出浦照國先生の下で保存期慢性腎不全に対する食事療法の臨床と研究に打ち込んできました。特に藤が丘病院時代には、末期腎不全の患者さんを食事療法で改善させ、透析導入を回避させた症例を何人も経験することができ、それらの成績をまとめて関連学会で発表するとともに論文としても報告しました。このことは、管理栄養士としてのやりがいを感じることができたという点でとても幸せなことでした。4 月からは管理栄養士養成大学の教員として新たなスタートを切ることになりますが、これらの経験を学生教育の場に生かして行きたいと思います。

今年 4 月の診療報酬の改定では、管理栄養士の活動が評価されさまざまな領域で診療報酬の新設や増額、規制の緩和などが行なわれます。このように医療における栄養の問題は、今後ますます重要性を増してくることと思います。幸い本学の各病院栄養科には優秀な管理栄養士が揃っておりますので、どんどんと活用して頂くとともに、私の退職後も栄養科をどうぞよろしくお願い申し上げます。

退職者の紹介

これまでにご挨拶いただいた方々以外にも、定年退職者がいらっしゃるので、お名前をご紹介させていただきます。

長きにわたる昭和大学病院でのご勤務、感謝申し上げます。

●患者相談窓口　看護師　大田優子　　●入院棟 12 階病棟　看護補助員　大竹由紀子

●薬剤部　薬剤師　小林智子

お知らせ

医師の配属・異動・退職について

異動

【附属施設へ】2020 年3月 1 日付

●皮膚科　荻原麻里（藤が丘病院皮膚科へ）　　●産婦人科　小島七瀬（藤が丘病院産婦人科へ）

●眼科　山田美穂（藤が丘リハビリテーション病院眼科へ）　　●臨床病理診断科　南雲佑（江東豊洲病院臨床病理診断科へ）

●糖尿病・代謝・内分泌内科　後藤聡（横浜市北部病院内科へ）

退職

2020 年 2 月 11 日付　●放射線科　飯ケ谷久美

2020 年 2 月 29 日付　●小児循環器内科　籏義仁

私達の強み

小児外科　診療科長
渡井　有
（平成元年 昭和大学卒）

「小児泌尿器」といえば 昭和大学病院

小児外科の対象疾患は呼吸器・消化器のみならず
泌尿生殖器も含まれます。
検査から診断、外科的治療とその後の管理まで
途切れることのない診療を行います。

【外来担当医表】

○ 教授　□ 准教授　△ 講師　☆ 助教

			月	火	水	木	金	土
小児外科	午前	初診	<一般> 医局員			<一般> ○渡井 有		初・再診<一般> ○土岐 彰（第1） □千葉 正博（第2） △中山 智理（第3・4） ☆大澤 俊亮（第5）
		再診	<一般> 医局員		<一般> □千葉 正博	<一般> ○渡井 有		
	午後	初・再診		<一般> □千葉 正博	<一般> ○渡井 有	<一般> ☆大澤 俊亮	<一般> △中山 智理	

【初診外来日】

月・木・土（午前診療日）　8:30～14:00
火・水・金（午後診療日）13:00～15:00

※小児外科では、初診の午後診療を上記の通り行っています。
※緊急受診のご依頼は、医療連携室までご連絡ください。

【小児外科のスタッフ】

【特徴１】小児泌尿器疾患の専門的な知識を持った医師が対応

陰嚢水腫・停留精巣・包茎などの日常疾患から、水腎症・腎盂尿管移行部狭窄症・膀胱尿管逆流症など小児泌尿器疾患を小児の特性を踏まえて診療しています。急性陰嚢症や泌尿生殖器の外傷など救急疾患も常時対応しています。

【特徴２】胎児期から産婦人科・新生児科・小児科との連携

先天性疾患は、出生前に胎児超音波検査で見つかることが増えています。充実した総合周産期母子医療センターを中心に産婦人科、新生児科、小児科、小児外科で密接に連携し診療に当たっています。そのチーム力がお子さんの短期的および長期的な予後を左右する場合もあります。先天性から後天性まで幅広く対応しています。

【特徴３】患児および家族のニーズに応える

出生前からご家族へのわかりやすい説明と診療を行うように心掛けています。総合周産期母子医療センター、小児医療センターにおいて医師、看護師、薬剤師、保育士などひとつのチームとして診療を行っています。小児は成長過程にあり、術前術後も長期にわたるフォローアップを行います。また、小児にとって手術創は精神的なハンディキャップとなる可能性のあるため、手術創の整容性に十分配慮した手術を行います。

トピックス　患者さん参画のお願い

～更なる安全な病院づくりに向けて～

昭和大学病院及び昭和大学病院附属東病院では、患者さんやご家族も医療チームと医療安全対策を一緒に行うパートナーシップ活動を推進しています。

患者さんやご家族にとってより安全な病院となるようご協力よろしくお願いいたします。

パートナーシップ活動：患者さんの誤認防止対策

当院の患者さん確認方法として、2点の識別子を用いた確認（２点確認）を実施しています。識別子として氏名（フルネーム）は必須となります。もうひとつの識別子として、生年月日が基本となりますので、「氏名と生年月日」を聞かれましたらスタッフにお伝えください。生年月日以外の識別子として患者さんID(診察券番号)やリストバンドのバーコード照合などを行うこともあります。

氏名
（フルネーム）
＋
生年月日　or　患者 ID　など

それぞれの場面で照合する対象が違いますのでスタッフから何度も「氏名と生年月日」を聞かれますが、安全確認のため何度もお伝えください。

診察のとき

点滴・注射のとき

検査のとき

手術のとき

また、病院から渡される処方箋や各種書類などに間違いがないか、ご自身も2点確認くださいますようお願い申し上げます。

患者さんのご意見・ご要望

ご意見・ご要望	回答	回答部署
食事に卵料理がほとんど出ていないように感じます。１日１回は卵焼き、卵とじ、目玉焼き、オムレツなど提供して頂けないものでしょうか。	食事で卵料理がほとんど出ないとのことですが、卵料理も提供料理の中に含まれております。 肉、魚などのたんぱく源が重ならないよう工夫して提供しておりますが、食止めのタイミングが丁度卵料理の日と重なっていたかもしれません。 貴重なご意見ありがとうございました。	栄養科
CT 検査を予約したのに２時間待たされました。予約した意味がわからないです。すごく不愉快でした。スタッフのみなさんの態度が悪くてイライラしました。	この度は大変申し訳ございませんでした。当院は急性期病院として急性疾患患者を多く受け入れる特性上、ご予約いただいている患者さんにお待ちいただき、緊急検査を優先させて頂くことがございます。 ご記入頂いた日は 80 件近い緊急検査が入っており、やむを得ず定期の患者さんをお待たせすることとなってしまいました。業務改善に向けて、多職種と話し合いを重ね、順々に改善していくところでございます。 また、スタッフの態度が悪く不快なお気持ちにさせてしまい申し訳ございません。検査をこなすことに集中するあまり、患者さんに対する接遇をおろそかにしないよう、再度教育させていただきます。	放射線技術部

編集後記

整形外科　教授　稲垣克記（いながきかつのり）

寒さもあと一息、桜の花が待ち遠しい時期となりました。桜のつぼみが「今か今か」と待っているのが聞こえてくるようです。３月号は４年間お勤めになられました板橋家頭夫病院長の退任のご挨拶を筆頭に、臨床病理診断科の瀧本教授、薬剤部の佐々木部長、看護部からは菊地師長と小田原師長、また栄養科の菅野科長補佐から定年・退職のご挨拶をいただきました。心から感謝申し上げますと共に、今後も引き続きご指導ご鞭撻をお願いいたします。

さて、新型コロナウイルス（WHO 命名「COVID-19」）の感染者が日本でも増加し、感染拡大のスピード抑制対策の一環として、学校も安倍晋三首相の判断で臨時休校となるなど、国民の暮らしに大きな影響を及ぼしています。国立国際医療センター・国際感染症センターの大曲先生によれば、「感染力は高いが『軽い患者』が多い印象、高齢者で持病のある方以外に酸素が必要となった方は極めて少ない」そうです。SARS や MERS など致死率の高い感染症とは全く異なり、今までにはない感染症であることは確かですが、自己の持つ免疫力により時間はかかるが不顕性感染または自然治癒してゆくようです。コロナウイルスは、遺伝子構造は変わらないが変異のスピードが速く、微妙な変異が起こる率が高いとの由、時々刻々と変化する環境のなか情報に左右されて不安と焦燥に陥ることなく、臨機応変に独立性のある対応が必要となります。

「飛沫感染」の予防には咳エチケットであるマスクを、「接触感染」の予防には頻回の手洗いとアルコール消毒につきます。通気性も大切とのこと。知恵と英知を働かせ、専門性の高い医師・メディカルスタッフチームのいうことを信じて、日々の充分な栄養と睡眠、適度の運動で体調を整えて、この目に見えない相手との闘いを皆で克服してゆきましょう。

昭和大学病院･附属東病院の理念

- 患者本位の医療
- 高度医療の推進
- 医療人の育成

昭和大学病院・附属東病院の基本方針

- 患者さんと共にチーム医療を実践する。
- 特定機能病院及び地域の基幹病院として高度急性期医療を推進し、質の高い医療を提供する。
- 教育病院としての機能を充実し、質の高い医療人の育成を行う。
- 人間の尊厳及び人権を守りつつ、高度な臨床研究を実践する。

※記事見出しの色分けについて

病院だよりでは、見出しに色分けをすることで読者の皆様が読みやすいよう工夫をしております。

黄色見出し：患者さん、患者さんのご家族向け

青色見出し：医療関係者向け

緑色見出し：医師の配属・異動・退職について

病院広報委員会委員：　稲垣 克記、大嶽 浩司、岡崎 靖子、五藤 哲、佐藤 久弥、嶋村 弘史、鈴木 隆、鷲見 賢司、富田 英、中村 清吾、樋口 恵子、水庭 隆史、山岸 昌一、吉田 仁、渡辺 愛理、渡邊 聡（50 音順）

昭和大学病院　検索

昭和大学病院附属東病院　検索

発　行　昭和大学病院、昭和大学病院附属東病院
発行責任者　昭和大学病院長　板橋 家頭夫
編集責任者　広 報 委 員 長　中村 清吾
〒142-8666 東京都品川区旗の台 1-5-8
ＴＥＬ：03-3784-8000（代表）